

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）課題評価委員会

とりまとめ：大浜秀規

1 評価委員

- 委員長 岩田智也 学識経験者
山梨大学工学部循環システム工学科 准教授
- 委員 羽田金祝 生産者（漁業）
山梨県漁業協同組合連合会 副会長理事
- 委員 津野正康 生産者（養殖）
山梨県養殖漁業協同組合 代表理事組合長

2 評価委員会

(1) 第1回 平成25年8月23日（木） 水産技術センター本所

- ①事前評価課題「富士五湖における漁業実態の解明」 研究管理幹（忍野支所長） 大浜秀規
- | | | |
|-----------------|----|---|
| 研究目標の達成度 | 5点 | 富士五湖の漁業・流通・遊漁の実態を初めて明らかにしており、達成度は非常に高い。 |
| 成果の有用性（普及性、波及性） | 4点 | 各漁協の経営・収入の違いや流通経路の確保、ブランド化が重要であることが明らかになっており、成果の有用性は高い。 |
| 研究の発展性 | 4点 | 得られた有用な成果をどのように指導普及に活用していくのか、方針を明確にして頂きたい。また、継続的に調査を行って頂きたい。 |
| 研究課題選定の妥当性 | 5点 | 山梨県の漁業振興に不可欠な情報であり、研究課題は妥当である。 |
| 総合評価 | 4点 | 本研究成果をもとに各漁協に対して適切な指導普及業務を行って頂きたい。また、漁協間や観光、教育分野との連携を含めた包括的な漁業振興策についても是非検討して頂きたい。 |

《試験研究機関の処置》

- 流通経路の整備や漁場の有効利用等については、漁業調整上の問題もあることから県行政との連携を図りながら検討して参りたい。

(2) 第2回 平成26年1月21日（火） 水産技術センター本所

- ①事前評価課題「ブドウポリフェノール投与による養殖魚の品質向上試験」 研究員 名倉盾
- | | | |
|-----------------|----|--|
| 研究目標の達成度 | 5点 | ブドウポリフェノール投与による効果が十分得られており、研究の成果は高い。 |
| 成果の有用性（普及性、波及性） | 5点 | 本研究成果は県内の養殖業者にとって非常に有益であり、普及性・波及性ともに高いと思われる。 |
| 研究の発展性 | 4点 | 甲斐サーモンを用いて長期飼育投与を行った場合の効果について |

		て、さらに研究を行っていただきたい。
研究課題選定の妥当性	5点	内水面漁業だけでなく、果樹産業など農水産業全般にわたって有益な研究内容であり妥当な課題である。
総合評価	5点	良い研究成果が得られているので、引き続き本研究の継続課題を進展させていただきたい。

《試験研究機関の処置》

- 今後は既存の「甲斐サーモン」への活用あるいは新しいブランド魚の開発に向けて、花き農水産課や養殖漁業協同組合と一体となった普及協議会の設立を模索しながら検討して参りたい。